

## 2022年3月期 第3四半期決算説明(電話会議) Q&A サマリー

### Q: 国内の東北、春日井、四日市工場と海外のCKD中国工場の現在の状況

A: いずれの工場も高い稼働状況です。東北工場、春日井工場は、需要増加を受けて稼働が上がり、空気圧機器を生産している四日市工場、CKD中国工場も高い稼働状況です。

### Q: 供給制約の影響

A: 現在、半導体関連や電子部品の需給がタイトになってきております。また、一部の樹脂材料などもタイトな状況です。そのため、必要量確保に継続して動いております。

### Q: 機器 3Q 空気圧機器と流体制御機器 供給制約の違いはあるか

A: 2Q対比で3Qは、空気圧機器、流体制御機器ともに売上高を伸ばすことができましたが、空気圧機器の方が、部材の供給制約による影響を受けました。

### Q: 部材高騰の影響

A: 部材の供給不足による需給のアンバランスを受け、コストは上がってきておりますので、生産性改善や一部の製品の値上げなどにより、収益への影響を最小限にするよう取り組んでおります。

### Q: 機器 3Q セグメント利益 堅調な中、押し下げの要因はあるか

A: 部材が断続的に入ってくることによる生産効率への影響が、利益に反映されていると考えております。

### Q: 機器 3Q 中国市場の動向

A: 半導体や二次電池向けなどを中心に引き続き好調でした。

### Q: 機器 3Q ダイレクトドライブモータの需要環境

A: ダイレクトドライブモータの売上高は増えております。半導体関連や一般産業向けで引き続き堅調でした。

### Q: 機器 半導体 3Q実績が予想より良かった理由

A: 米国デバイスメーカーの設備投資が想定よりも強く、投資が動いたことが影響しているとみております。

### Q: 機器 半導体 投資見通し

A: ロジック向けは、現在、微細化投資が続いており、引き続き堅調に推移するとみております。メモリー向けも投資は継続しております。ロジック向け、メモリー向けともに来上期までは投資が予定されておりますので、堅調に推移するとみております。

### Q: 機器 半導体 4Q以降も需要が高い状況が続くと捉えているか

A: 需要自体は強く、3Qと同様の水準は考えられますが、部材の調達リスクなどの影響がどのように出るかによるとみております。

**Q:通期予想を据え置いた理由**

A:部材の調達や生産調整などのリスクが顕在化する可能性があるとも見たためです。これらのリスクが顕在化しない可能性も考えられますが、弊社として様々な可能性を検討いたしました。

**Q:現在行っている設備投資が完了した後の生産能力**

A:機器の生産能力で、およそ1割アップを見込んでおります。

**Q:タイ工場と北米新工場について**

A:タイ工場は、現在のタイ工場に隣接した工場を2021年11月に土地と建屋を購入し、2022年2月から生産を始めております。北米新工場は、2022年春頃に竣工の予定です。